山口県大学ML（Museum・Library）連携事業報告

平成２８年度 展示テーマ『はぐくむ』

山口県大学ML（Museum・Library）連携事業報告

平成28年度 展示テーマ『はぐくむ』

事業の経緯と経過

平成 28 年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を生かした学術資料または研究成果の展示を開催するという現行体制での 4 年目となった。参加館数は昨年度と同様、12 大学 17 館（下記「事業の実施体制」参照）での事業となった。

各地区の事業説明会を、下関地区では平成 28 年 6 月 16 日に水産大学校図書館にて、山口･萩以東地区では 6 月 21 日に山口大学総合図書館にて、宇部地区では 6 月 27 日に山口大学医学部図書館にて開催し、

◎展示の共通テーマを『はぐくむ』とする
◎事業期間は 10 月から翌年 1 月までとし、各館 2 ヶ月以上展示開催する
◎事務局下関地区担当を下関市立大学附属図書館、宇部地区担当を山陽小野田市立山口東京理科大学図書館とする
◎見学者が効率よく各館を回れるよう、各地区で開催期間を調整する
◎スタンプラリーを実施し、4 館見学でコットンバッグ、8 館見学で手ぬぐいをプレゼントする。今年度も館によりボーナスポイントを付ける

などが決定された。

以降、各館の展示準備とともにポスター、スタンプラリーカード（チラシ）などを作成し、広報物配付後は事務局とともに各館による地域広報活動が進められた。

平成 28 年 10 月、予定通り「山口県大学 ML 連携特別展」は開幕し、期間中計測されただけでも（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）およそ 1,600 名もの方々に見学いただいた。スタンプラリーも最終的に 4 館達成者 41 名、8 館達成者 7 名、全館達成 1 名となった。

次頁より参加各館の展示内容の紹介と実施成果を報告するが、事業終了後の平成 29 年 2 月 16 日に山口大学総合図書館において事業報告会が開催され、各館の報告と今後の提案がなされ、次年度以降の活動などが検討されるとともに、次年度の事務局体制が報告された。当事業が抱える大きな課題として、広報の強化が挙げられる。参加館からは「若者向けに SNS の活用を検討してはどうか」「地域フリーペーパーへの投稿は効果的だった」などの意見・報告が出された。

また、事業実施にあたり参加費の導入および外部資金獲得の可否について検討され、外部資金獲得に向けた取り組みを積極的に実施していく事、参加費の徴収についても検討していく事が確認された。

展示広報用ポスター

事業の実施体制

・主催
山口県大学 ML 連携事業事務局（山口大学情報環境部学術情報基盤整備室内）
代表 永久英雄　（山口大学情報環境部学術情報課 副課長）
企画担当 横山成己　（山口大学埋蔵文化財資料館 助教）
※平成 28 年 7 月まで
事務担当 川上　誠　（山口大学情報環境部情報管理係 図書系主任）
下関地区担当 下関市立大学図書館
宇部地区担当 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館

・参加館
岩国短期大学付属図書館　宇部フロンティア大学短期大学部図書館
宇部フロンティア大学附属図書館　山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
至誠館大学附属図書館　下関市立大学附属図書館　下関短期大学図書館
水産大学校図書館　東亜大学附属図書館　梅光学院大学図書館
梅光学院大学博物館　山口県立大学図書館
山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館　山口大学医学部図書館
山口大学工学部図書館　山口大学総合図書館　山口大学埋蔵文化財資料館
（50 音順）

・共催
大学リーグやまぐち　山口県大学図書館協議会

・後援
山口県図書館協会　山口県博物館協会　大学博物館等協議会

山口県大学ML連携事業web

下関市立大学 附属図書館

『泰平の世が育んだ「とき」を知る』

住　所：〒751-8510　下関市大学町 2-1-1
電　話：083-252-1211
e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/
●開催期間：10 月 1 日（土）～ 11 月 30 日（水）
●開館時間：月～金 9 時～ 21 時 30 分
　　土・日 9 時 30 分～ 17 時
●休館日：祝日・館内整理日・大学祭期間

【展示内容】
　江戸時代、幕藩体制のもと日本の産業・文化・経済は大いに発達しました。古地図「元禄四年（1691 年）日本繪圖併名所入」、『長府毛利藩城下町繪圖（弘化三年（1846）屋敷割図 ）」、「捕鯨繪巻鯨類図写」の複写パネルを展示し、近世～近代を育んできた泰平の世に触れ造詣を深めていただきました。
　閲覧をご希望の方には、本学内に常設されているくじら資料室をご紹介しました。

【主な展示品】
・古地図パズル
・鯨類絵図

【観覧者数】
　35 名

【関連事業】
　なし

【成果】
　印象に残った展示品として、江戸時代の古地図や鯨類絵図が挙げられており、泰平の世への造詣を深めたいという展示目的に、一定の効果を得ることができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
　別棟の鯨資料室見学へと誘導するために、展示の工夫を施したいと思います。

展示の模様

展示の模様

下関短期大学 図書館

『豊かな心をはぐくむ
～絵本にみる保育と食育～』

住　所：〒750-8508　下関市桜山町 1-1
電　話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
http://www.shimonoseki-jc.ac.jp/33_library/index.html
●開催期間：10 月 3 日（月）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日
　　※11 月 5 日（土）・6 日（日）は臨時開館

【展示内容】
　本学には、栄養健康学科と保育学科があり、双方が絵本を通じて保育や食育活動を展開しています。そこで今回は、館蔵の絵本・学生が作成した絵本の紹介媒体などを中心に展示しました。同時に「豊かな心をはぐくむ」ための図書館と学生協働などについても考えました。

【主な展示品】
・手作り絵本
・学生による絵本の解説

【観覧者数】
　不明

【関連事業】
・桜山祭（大学祭）における絵本読み舞台発表（11 月6日）
　および特別増設展示（11 月5～6日）

【成果】
　展示を通じて図書館における学生協働活動（平成 25 年度～ 28 年度）、及び館蔵絵本を紹介することができました。学内教職員だけでなく、学生が展示資料制作者となることによって、図書館協働活動を相互に考えることができました。展示期間内に大学祭（11 月5日（土）、6日（日））が含まれていたため、保護者・地域住民の方々にも観覧して頂くことができました。昨年度同様、「図書館報」にML連携展（下関市内5大学分）の概要を紹介し、学内 10 箇所、及び付属高校・付属幼稚園に掲示して広報に努めました。また、学外観覧者として梅光学院大学の博物館学芸員資格取得希望学生に個別訪問を頂きました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
　次年度、山口県立博物館での連携展はどの程度の共通事項を決めるのか（例：展示資料目録・解説パネル・キャプションの共通の書式・形式設定の有無、展示作品の保険など）、また、関連シンポジウムを行うのであれば、開催時期・内容など早期に決定する必要があると感じます（予算執行も伴うため）。また、10 月～1月の間の本学図書館における展示・問い合わせの体制についても早期に考えておく必要があると感じています。

展示観覧風景

桜山祭における学生の大型絵本読み舞台発表

東亜大学 附属図書館

『戦前の絵はがきにみる山口
～郷土にはぐくまれた暮らしと文化～』

住　所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1
電　話：083-257-5111
e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp
http://www.toua-u.ac.jp/
●開催期間：11 月 8 日（火）～ 12 月 22 日（木）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：日曜日・祝日
11 月 12（土）、12 月 10 日（土）

【展示内容】
東亜大学東アジア文化研究所には、県内の多くの方から寄贈された「絵はがき」が 300 点余所蔵されています。そのなかから、錦帯橋や秋芳洞、長門峡、瑠璃光寺などの名所をはじめ学校や博物館などの自然や文化景観などの絵はがきを展示しました。戦前の山口の人々の視覚的経験を「絵はがき」によって再体験し、現代の景観と比較することによって、郷土にはぐくまれた暮らしと文化を見つめなおそうとする企画でした。

【主な展示品】
・戦前の絵はがき類

【観覧者数】
不明

【関連事業】
展示説明会の開催

【成果】
参加3回目ですが、今回は東亜大学東アジア文化研究センターが所蔵する品をもとに構成し本学の「博物館学芸員課程」に在籍する学生を中心に、実習を兼ねた展示を行いました。「はぐくむ」というテーマのもと、本学の行う教育・研究の一端について少しでもご理解をいただくことができたのは幸いでした。
なお、今回は展示替えを兼ねてスペースを約二倍に拡大してより多くの所蔵品を展示しましたが、解説がやや不十分であった感は否めませんでした。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
次々年度以降も「連携展」として「統一テーマ」のもと毎年継続開催を前提とすると、当図書館の所蔵を元に「テーマに沿った魅力ある展示」がどこまでできるのかが引き続いての課題です。また、展示スペースに制約のあるなかで、今回は閲覧スペースとの混用を試みましたが、平面展示の場合はともかく立体展示の場合の課題は残ります。
以上、本学の課題は見えてきましたが、テーマに沿った内容を掘り出して連携事業により本学への関心を高めていけるようにと考えています。

展示の模様

展示説明会風景

水産大学校 図書館

『海の恵みを育む』

住　所：〒759-6595　下関市永田本町 2-7-1
電　話：083-286-5114
e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp
http://www.fish-u.ac.jp/
●開催期間：10 月 3 日（月）～ 12 月 22 日（木）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日（土曜日は学内者のみ利用可）
※10 月 8 日（土）は臨時開館

【展示内容】
古来、人類は海からたくさんの恵みを受けてきました。しかし、世界的な人口増加、国際情勢の変化、地球規模的な海の環境変化は、今後もこれまで通りの恵みを享受できるかどうか、大きな不安を与えます。後世の人々のためにも、現代に生きる私たちは海の恵みを育む努力をしていかなければなりません。水産大学校が取り組んでいる、海の魚介類、そして豊かな海の環境を育むための最新の研究成果をご紹介しました。

【主な展示品】
・シャコガイ標本
・海図から海峡都市下関の変遷を見る

【観覧者数】
70 名

【関連事業】
なし

【成果】
海の恵みとして我々が利用する魚類や甲殻類を理解するためのホルマリンの標本や下関周辺海域の変遷がわかる過去と現在の海図、海の恵みをより良く利用するための水産物の品質向上に関する研究成果を展示しました。また、大学祭や保護者懇談会等の開催時には外部に向けて臨時開館し、多くの訪問者に観覧していただくことができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
来場者のアンケート結果によると、一部に英語の研究紹介があったため読めなかったこととホルマリンでなく実際に手で触れることができる展示があると良いとの意見がありました。また、展示スペースが二階のため、場所がわかりにくいとの指摘がありました。

展示風景

観覧風景

梅光学院大学 図書館

『未来をはぐくむ ～クラッシック絵本の世界～』

住　所：750-8511　山口県下関市向洋町 1-1-1
電　話：083-227-1040
e-mail：library @baiko.ac.jp
http://www.baiko.ac.jp/university/library/
●開催期間：11 月 1 日（火）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：日曜・祝日
12 月 27 日～ 1 月 4 日、13・14 日、21 日

【展示内容】
梅光学院大学では、小学校・幼稚園教員、保育士、図書館司書を目指す多くの学生が、絵本を学び楽しんでいます。子どもたちの心と未来をはぐくむ絵本を通して、学生達もまたはぐくまれていると言えるのではないでしょうか。今回は図書館所蔵の江戸～昭和初期の日本の復刻版絵本と、18 ～ 19 世紀のイギリスの復刻版絵本を展示し、懐かしくあたたかい、クラッシック絵本の世界をお楽しみいただきました。

【主な展示品】
・国内外の復刻版絵本

【観覧者数】
79 名

【関連事業】
なし

【成果】
復刻版のクラシック絵本の展示をしました。
「かわいい」「楽しい」「懐かしい」展示となり、学生や一般の方の目を楽しませることができたように思います。
観覧人数は、第1回目に比べると2倍以上になり、周知が進んだことを実感しました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
ML 連携展示は、今後浸透していくことでますます成果が現れていくことと思います。
しかしながら、本学図書館では目の前の問題解決を優先させるため、次年度は不参加の決定となりました。
次年度企画のご成功を祈りつつ、問題解決した折にはぜひまた復帰させていただきたいと、勝手ながら願っております。

観覧風景

観覧風景

梅光学院大学 博物館

『未来をはぐくむ ～梅光博物室・教育標本～』

住　所：750-8511　山口県下関市向洋町 1-1-1
電　話：083-227-1070
e-mail：museum @baiko.ac.jp
http://www.baiko.ac.jp/university/museum/
●開催期間：11 月 1 日（火）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：日・水・祝日・12 月 27 日～ 1 月 4 日他
※11 月 6 日・12 月 4 日は臨時開館

【展示内容】
大正～昭和戦後期、本学院で使用した実物標本・教育資料等（自然・歴史・考古・宗教・文化 ）を展示しました。初代広津藤吉学院長自らが収集、展覧会に出展、学内「博物室」構想のもと、生徒達に本物・実物をみる観察力、知的好奇心、学習意欲を引き出させる工夫も見える資料群です。今回は平成生まれの学生達と今も続く本資料の展示を通しての学び合いの形をお楽しみいただきました。

【主な展示品】
・皇朝十二銭等の国内外古銭、藩札ほか

【観覧者数】
282 名

【関連事業】
・12 月 19 日（月）担当学生によるミュージアムトーク（第1回）参加者 26 名
・2017 年 1 月 16 日（月）担当学生によるミュージアムトーク（第 2 回）参加者 25 名

【成果】
梅光学院大学は「未来をはぐくむ」を共通タイトルに、博物館は博学実習の授業連携として実施。戦前の「梅光博物室」で展覧された実物資料と、当時のキャプションをセットにして、博学生が展示を紹介しました。今回は「展示者側と来館者側との展示対話・双方向展示形式」で行い、来館者からの質問、要望が書かれた付箋内容を受け止め、学生自身が展示修正をし続けるというもので、会期中 68 名の参加がありました。
また、学科授業とのコラボ企画・成果物展示（やまぐち政策アイディア・コンテスト入賞作品2点とその動画 ）、博物館サポーター学生によるフィールドワークの成果物も追加展示を行いました。比較的来館者の滞留時間が長く、学ぶ態勢が見えて新鮮かつユニーク等、好意的な感想や直接ご意見等をいただきました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
当館は 2012 年より「細く・薄く・長く」「継続は力」をモットーに ML 連携事業に参加してきました。大学間連携の醍醐味は学術資料の所蔵背景や研究の裏付けを知り、とりわけ関係者の学術的視点、趣向、知的かつ身近な面白さを共有し合い、それを学びたい人々にも波及・伝播させるところにあります。次年度は不参加致しますが、自館の資料整理と課題解決を優先させ、学術機能をパワーアップさせて、ML 連携事業への復帰を願いたいと思います。次年度の特別企画が山口県大学間における学術文化豊かな森となられますよう、お祈り申し上げます。

展示風景

観覧風景

山口大学 工学部図書館

『学び はぐくむ　～技術者の卵～』

住　所：〒755-8611 宇部市常盤台 2 丁目 16 番 1 号
電　話：0836-85-9051
e-mail：infoserv@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp
●開催期間：10 月 29 日（土）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：月～金：8 時 30 分～ 21 時 45 分
土日・祝日：11 時 15 分～ 18 時 45 分
●休館日：年末年始

【展示内容】
山口大学工学部付属ものづくり創成センターは、工学部におけるものづくり創成教育の拠点として、平成 15 年 4 月に設置されました。さまざまな授業や講習会をとおして、工学部で技術者の卵をはぐくんでいます。今回の展示では、同センターの取り組みを中心にご紹介しました。あわせて当館所蔵の関連資料もご覧いただきました。

【主な展示品】
・学生の作品
・ロボット

【観覧者数】
不明

【関連事業】
ワークショップ「オリジナルしおり作りとブックカバー作り」
実施日：11 月 20 日（日）
参加者：3 名

【成果】
今回の展示では工学部における技術者養成をテーマにすえ、工学部附属のものづくり創成センターに協力を依頼しました。センターの協力・提供のもとポスターを作成し、学生の制作物等を展示することができました。
昨年のアンケートは回答が 2 件でしたが、今年は 5 件ありました。すべて学外の一般市民が回答されています。正確な観覧人数を計ることはできませんが、学外で展示の認知度が徐々に上がり観覧者も増加しているものと思われます。
また、一般市民だけでなく、通りがかった学生もときおりポスターや展示物を観覧しており、学内外に工学部の取り組みを知ってもらうきっかけになったのではないでしょうか。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
展示の観覧者をもう少し増やしたいと考えています。昨年には無かった学生の制作物がアンケートでも好評で、通りすがりの学生も目をとめていたので、さらに多くの「もの」を展示したいと思います。

展示作品

観覧風景

山口大学 総合図書館

『学び はぐくむ　～先生の卵～』

住　所：〒753-8511　山口市吉田 1677-1
電　話：083-933-5183
e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp
●開催期間：10 月 29 日（土）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：月～金：8 時 30 分～ 21 時 45 分
土日・祝日：11 時 15 分～ 18 時 45 分
●休館日：年末年始

【展示内容】
山口大学の教育理念は、「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」です。展示では、次世代の子どもたちの学びをはぐくむ人材を養成するための、教育学部の特徴的な取り組み（ ちゃぶ台プログラム ）を紹介しました。併せて、教育学部前身校所蔵資料の中から、昭和期の学校教科書や当時の学生生活の写真展示と共に、本学における教員養成の歴史を振り返りました。

【主な展示品】
・戦前の教科書（復刻版）

【観覧者数】
不明

【関連事業】
・ワークショップ「とびだす仕掛け絵本」：10 月 30 日（日）参加約 26 名
・ミュージアムトーク：11 月 12 日（土）参加 11 名

【成果】
「学びはぐくむ ～先生の卵～」をテーマに、教員養成にスポットをあて、本学教育学部の特徴的な取り組み（ちゃぶ台プログラム）の紹介、山口県における教員養成の歴史、教科書の歴史についてパネル展示を行いました。教科書の歴史を振り返る展示では、大正・昭和期の教科書の復刻版を実際に手に取ってみることができ、アンケートでも好評でした。
今回、ミュージアムトーク以外にも、博物館実習の時間の一部をいただき展示解説を行ったり、大学見学の中高生に展示を紹介する機会もあり、例年より多くの人に展示について直接紹介する機会がありました。幅広い年齢層に興味を持ってもらえるテーマだったことが良かったと思われ、今後も展示テーマ選定の際に参考にしたいと考えています。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
教育学部の「ちゃぶ台プログラム」については、パネルで紹介するだけに終わってしまいましたが、本来は、ミュージアムトークやワークショップの機会を利用して、実際に同プログラムに参加する学生にも関わってもらえたら良かったと思います。今後も学内の特徴的な教育・研究を紹介する展示を継続するならば、関係部署にパネル作成以外の部分でも関わってもらい、展示の観覧者と直接触れ合う機会を設けたいと思います。

観覧風景

ワークショップ風景

宇部フロンティア大学 短期大学部図書館 『子どもをはぐくむ』

住　所：〒755-8550 宇部市文京町 5-40
電　話：0836-35-9511（総務課）
e-mail：soumu@ube-c.ac.jp
http://lib.ube-c.ac.jp/
●開催期間：10 月 3 日（月）～ 12 月 22 日（木）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日
※11 月 13 日（日）は臨時開館

【展示内容】
宇部フロンティア大学短期大学部には創設 50 年以上の歴史を有する保育学科があります。保育者養成、子育て支援の観点から、学科が保有するフレーベルの恩物やモンテッソーリの教具など知育に関する展示や、子どもの育ちに関する展示を致しました。

【主な展示品】
・知育教具等

【観覧者数】
125 名

【関連事業】
学生による絵本の読み聞かせの会

【成果】
幼稚園の創始者フリードリッヒ・フレーベルが子どもの最初の遊具として考案した教育玩具『フレーベルの恩物』を主として展示しました。10 種類の恩物を来館者が手に取って遊べる形としたため、この遊具の基本的な形が多様性に富みながら展開していく楽しさを皆さんに体験していただくことができました。
また本館が所蔵する子どもの遊びをテーマとした歴史、風俗、美術、音楽等たくさんの資料を展示し、貸出、閲覧数が増加しました。
遊びが子どもを「はぐくむ」上での重要性や、本学幼児教育の取り組みについて、楽しい形で発信することができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
次年度は関連事業を充実させ、展示を企画・運営することの面白さを学生達にも体験してもらいたいと考えています。

展示の模様

展示の模様

宇部フロンティア大学 附属図書館 『看護・福祉・心理の 専門家をはぐくむ大学』

住　所：〒755-0805 宇部市文京台 2-1-1
電　話：0836-38-0524
e-mail：tosho@frontier-u.jp
http://www.frontier-u.jp/index.php/a-library
●開催期間：10 月 3 日（月）～ 12 月 22 日（木）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日
※10 月 22 日（土）・23 日（日）は臨時開館

【展示内容】
宇部フロンティア大学では福祉・心理・看護の専門家を養成しています。当館では、本学におけるこれらの専門家をはぐくむ教育課程についてご紹介しました。
主な展示内容は、大学院を含む本学の各分野における教育内容の紹介、講義・演習風景の写真、講義・演習で使用するテキストや参考資料、演習で使用する物品等を展示しました。

【主な展示品】
・関連書籍
・新生児モデル
・学生協働シンポジウム報告

【観覧者数】
271 名

【関連事業】
大学祭の図書館開館

【成果】
本学で養成している福祉・心理・看護の専門家をはぐくむ教育課程について、1 年生から 4 年生までの教育内容や講義・演習風景の写真、在学生のコメントをパネル展示にて紹介することで、学内外にアピールすることができました。特に、今年度は、パネル展示や書籍展示以外に初めて演習で使用する物品を展示し、体験コーナー（コラージュ体験や新生児モデル抱っこ体験）も開催したことで楽しく観覧していただくことができ、一般の方にも図書館や本学を知ってもらう良い機会となりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
来年度は山口県大学 ML 連携特別展のため、本学独自の展示やテーマを取り入れて、特別展をもりあげるような体制作りを検討する予定です。

展示の模様

観覧風景

山陽小野田市立
山口東京理科大学 図書館

『地域のこどもたちの科学の探究心をはぐくむ』

住　所：〒756-0884　山陽小野田市大学通 1-1-1
電　話：0836-88-4512
e-mail：ylib@admin.tusy.ac.jp
http://www.tusy.ac.jp/laboratory/library/
●開催期間：11 月 1 日（火）～ 12 月 27 日（火）
●開館時間：月～金　9 時～ 20 時
　　土　9 時 30 分～ 17 時
●休館日：日曜日・祝日

【展示内容】
　山陽小野田市立山口東京理科大学では地域連携の一環として、地域こどもたちの科学に対する探究心をはぐくむ活動を地域連携センターの各種行事として行っています。「ほんものの科学」は大学の教員が山陽小野田市内の小中学校に出向いて、あるいはこどもたちが大学に来て、科学の楽しさを伝える授業をおこなう事業です。また「かがく博覧会」は市内サンパークで 9 月下旬～ 10 月初旬に土日の 2 日間、市内の企業や高校とともに科学に関するテーマ展示を行う催しものですが、ここでは同時に夏休みの子供作品展も展示されます。その他、地域連携センターでの各種取り組みを紹介しました。

【主な展示品】
・「かがく博覧会」使用機器
・プラズマ球

【観覧者数】
　13 名

【関連事業】
　なし

【成果】
　地域のこどもたちを対象に本学が実施している活動を中心に紹介しました。毎年おのだサンパークで開催している「かがく博覧会」で実際に使用した機器等を展示したところ、昨年よりもこどもの見学が増えたように見受けられました。手に取ることのできる（実際に操作できる）展示物にしたことで、観覧者には展示一つ一つに興味を持ってもらうことができ、地域貢献の一助となったことが成果であると思います。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
　大学の特色をいかに出すか、また、次年度はガラスケース越しでの展示方法となるため、直接手に取る展示が難しくなり、展示物の選定が課題となります。

展示の模様

観覧風景

山口大学 医学部図書館

『学び はぐくむ　～医療人の卵～』

住　所：〒755-8505　宇部市南小串 1 丁目 1-1
電　話：0836-22-2142
e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/
●開催期間：10 月 29 日（土）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：月～金：8 時 30 分～ 19 時 15 分
　　土日・祝日：13 時 15 分～ 16 時 45 分
●休館日：11 月 26・27 日、12 月 29 ～ 1 月 3 日ほか

【展示内容】
　山口大学医学部では、社会の変化・時代のニーズに対応できる高度な知識と技量、並びに豊かな人間性を持つ医師・看護師・臨床検査技師などの医療人を育成するため、さまざまな取組を行っています。これらの取り組みを紹介するとともに、江戸時代に山口県で行われていた医学教育を紹介し、当館が所蔵する当時の医学書を展示しました。

【主な展示品】
・山口大学医学部の取り組み
・江戸時代の医学書

【観覧者数】
　不明

【関連事業】
　職員による展示説明
　実施日：11 月 5 日（土）
　参加者：5 名

【成果】
　医療人の育成をテーマとし、医学教育学講座の協力により、医学科の教育を紹介する展示を行いました。その他にも、医学部におけるユニークな取組として、医療人キャリア支援室の女性医師支援の取組や医学部図書館学生協働の活動を紹介しました。
　一般の方からは、医学教育について分かりやすく説明されていたと好評でした。本学の学生・職員も観覧していたので、学内者にも医学部の取組を広報する機会となりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
　一般の方から「学生からもっと一般市民に向けて実際に医療への志を語る機会やふれあいの場があると良かった」とのご意見がありました。
　医学祭や授業の一環でそのような活動をしていますが、実施関連事業として学生によるトーク会を開催してもよかったかもしれません。

展示説明風景

展示風景

山口大学 埋蔵文化財資料館
『学び はぐくむ ～モノから学ぶ歴史教科書～』

住　所：〒753-8511　山口市吉田 1677-1
電　話：083-933-5035
e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp
http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ Shiryoukan.home/
●開催期間：10 月 29 日（土）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日・12 月 28 日～ 1 月 4 日
10 月 29・30 日、11 月 12 日は臨時開館

【展示内容】
　現在、日本の歴史は小学6年生から学び始めます。その後、高等学校までの7年間、教科書を素材とした学習を続けますが、子ども達は教科書に書かれている「史実」と実物資料を見比べて学ぶ機会に恵まれているとは言えません。
　今回は、教科書の記述にしたがって実物資料を展示することにより、教科書的日本史と実際の地域史とを比較しました。

【主な展示品】
・縄文・弥生時代の石鏃
・「千字文」音義木簡

【観覧者数】
　561 名

【関連事業】
・10 月 30 日（土）木簡ワークショップ
・11 月 12 日（土）ミュージアムトーク

【成果】
　歴史教科書に記される「歴史上の定説」を、実物資料（考古資料）をもって検証するという内容で展示を構築しました。いつか実施したいと考えていた企画ですが、このような企画は「現状学校教育への批判」に繋がるため、行政博物館では実施困難かと思います。大学らしい展示が行えたと自己評価していますが、いかんせん学内の教員および学生の反応が薄かったように思います。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
　「山口県大学 ML 連携事業」と言いつつ現状は博物館2館、図書館 15 館の参加となっています。次年度は山口県立山口博物館での集合展示が開催される予定ですが、参加する博物館は当館のみとなる予定です。物質文化を調査研究する施設として恥ずかしくない展示を行いたいと思います。
　また、他の参加大学にも少数ですが資料館・資料室が存在します。これらの施設に対して連携を呼びかけたいと考えています。

ミュージアムトーク風景

ワークショップ風景

山口学芸大学 山口芸術短期大学 図書館
『こころをはぐくむ』

住　所：〒754-0032 山口市小郡みらい町1丁目7番1号
電　話：083-972-3288
e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp
http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library/
●開催期間：11 月 1 日（火）～ 12 月 26 日（月）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土曜日・日曜日・祝祭日
※11 月 19 日（土）・20 日（日）は臨時開館

【展示内容】
　本学の保育の授業では、「見る、聞く、さわる」という、色々な感覚をつかって、楽しみながら感情や感性をはぐくむ教材を手作りしています。その中から、身近なくつしたを使って作る人形やオリジナルのあやつり人形を紹介しました。 また、親子のふれあいを描いた絵本、ページをめくるごとに驚きや発見があるしかけ絵本なども展示しました。

【主な展示品】
・しかけ絵本
・ソックドール

【観覧者数】
　不明

【関連事業】
　山口大学工学部学生によるML展示見学後、本学職員との対談会

【成果】
　本学1階展示ホールや2階展示室を利用して展示したため、一般来学者など図書館利用者以外にも広く紹介することができました。
　展示内容としては、可能な限りしかけ絵本を開いて展示するようにしたことで、しかけ絵本の面白さ・楽しさを紹介することができ、また、当館にこれほど揃っているとは知らなかったという声も多く聞かれました。
　保育学科の学生・教員が靴下等で作成したぬいぐるみを多数展示したことで、他学科の学生・教員等の保育教育に対する興味付けにもつながったようです。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
　より一層広報を推進するとともに、ワークショップ等、学内外をまきこんだ能動的な活動を考えていく必要があると思われます。
　各学科との連携を深め、情報の共有に努めます。

展示の模様

展示観覧風景

山口県立大学 図書館

『寺内文庫に育まれた収蔵資料 - 異文化を理解する心をはぐくむ -』

住　所：〒753-8502　山口市桜畠 3-2-1
電　話：083-928-0522
e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp
http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/library/ypulib/index.html
●開催期間：11 月 1 日（火）～ 1 月 30 日（月）
●開館時間：9 時～ 19 時
●休館日：土・日・月末・年末年始

【展示内容】
桜圃寺内文庫の中を、展示品を求めて捜索すると、時として不思議なものを発見することがあります。本来は本学の他の施設で保管されるものですが、スペースの関係もあり、文庫に置かれたものと推察されます。
今回の展示では、文庫内で保管されている、教材だと思われるものを紹介しました。

【主な展示品】
・パプアニューギニア民具資料（弓矢、口琴など）

【観覧者数】
不明

【関連事業】
なし

【成果】
今回は、「異文化を理解する心をはぐくむ」をテーマに展示を行いました。展示品はどのような経緯で収蔵されたものかは分かっていませんが、民族学に関する教科を教えておられた教員の教材ではないかと推察されます。タグにパプアと記載されていることから、パプアニューギニア原住民の楽器、装身具、道具、武具だと判断できます。収蔵品は、近代の図書館が美術館、博物館、文書館などと未分化だった時代を思い起こさせると共に、本学の国際文化学部に関連する資料として、これからも活用できるものです。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
PR の方策を検討したいと思います。

観覧風景

主要展示品

至誠館大学 附属図書館

『学生とはぐくむ教材，教材ではぐくまれる学生 -オリジナル英語教材 200 展 -』

住　所：〒758-8585　萩市椿東浦田 5000
電　話：0838-24-4081
e-mail：library@shiseikan.ac.jp
http://www.shiseikan.ac.jp/library
●開催期間：10 月 10 日（月）～ 12 月 23 日（金）
●開館時間：8 時 45 分～ 17 時 30 分
●休館日：土・日
※11 月 20 日（日）は大学祭のため臨時開館

【展示内容】
大学の英語は講義形式が一般的ですが、実習でという大学（たとえば、大阪外国語大（現大阪大）など）もあります。
そこで、これまでの「実習」で使ってきた教材を、リーフレット・ポスター・カード・ゲームなどに類別し、その中からおよそ 200 点を公開しました。その中には、四半世紀前のレトロなものもあり、また学生のオリジナル教材も含まれます。それらを通して、英語実習のバラエティと学生の取り組みを感じ取っていただけたと自負しています。
さらに、11 月 20 日（日）に行う展示解説では、来場者が飛び入りで楽しめる企画―「Skit-on-Site」・「Chalkboard Art」・「One-dollar Shop」なども開催しました。

【主な展示品】
・オリジナル外国語教材

【観覧者数】
約 60 名

【関連事業】
・11 月 20 日（日）　大学祭において展示解説：参加者約 40 名

【成果】
本学教員がこれまで開発・導入してきた英語教材を展示しました。展示期間中に、教材のみの展示ではどのように使用するのか等わかりにくいとの意見をいただいたため、キャプションを追加したり工夫を加えながらの展示となりました。
大学祭と同時に行われていたオープンキャンパスのプログラムに、展示見学も組み込んだため、高校生にも見学に来てもらい、実際の授業体験もしました。大学生活の一部を体験してもらう良い機会となったようです。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
次年度は集合展となるため、展示を担当する教員と連携して準備を進めていきたいと思います。

展示解説の様子

展示風景

岩国短期大学 付属図書館

『絵本作家の宇宙ではぐくまれる 幼児のこころ』

住　所：〒740-0032 岩国市尾津町 2 丁目 24-18
電　話：0827-31-8141（代）
e-mail：library@iwakuni.ac.jp
http://www.iwakuni.ac.jp
●開催期間：10 月 17 日（月）～ 12 月 22 日（木）
●開館時間：９時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日、11 月 11・21 日ほか
※11月20日（日）は大学祭のため臨時開館

【展示内容】
子どもの心は何を見て、聞いて、感じ育っていくのでしょうか。母の膝の上が子どもの最初の学校であるならば、母の優しいまなざしと愛情に満ちた声で読む絵本に広がるファンタジーの宇宙は、子どもを惹きつけ、はぐくみます。今回は中川李枝子さんの絵本の宇宙に広がる物語と彼女と感性を同じくする作家たちを惑星に見立てて、絵本作家の宇宙ではぐくまれる幼児の心を主題に紹介しました。
併せて、絵本を題材にした授業の紹介と学習成果の展示も行いました。

展示の模様

【主な展示品】
・中川李枝子の作品展
・しかけ絵本の展示
・学生の作品展示（手作り絵本・私の心の一冊）

【観覧者数】
約 44 名

【関連事業】
・「学生図書委員による中川李枝子作品のおはなし会」
11 月 20 日（日） 午後１回（約 30 分）
・「中川李枝子さんへの手紙」
会期中、幼児教育科１年生の授業の一環として、中川李枝子作品に触れてその感想等を中川さん宛の手紙にしたためました。

「学生図書委員によるおはなし会」の模様

【成果】
本年度は、テーマ展示として、中川李枝子作品を中心に彼女と交流のあった作家や画家の作品を展示しました。中川さんの作品については、同じ『ぐりとぐら』の作品であっても、障がい者も絵本を楽しめるよう点字絵本も出版されており、そのことを来館者の皆様に紹介できたことが成果としてあげられます。今回も絵本中心の展示で、わかりやすく、親しみのもてる内容になっており、多様な絵本の魅力を来館者にアピールすることができました。
また、授業との連携で、昨年に引き続き、取り上げた作家の作品の感想を学生が手紙にしたためるという試みをしました。そのことを通して、学生が意識的に展示作品に触れ、作家や作品をより深く理解することにつながりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
学内で、ＭＬ連携特別展への関心を高める取り組みが必要です。次年度の集合展に向けて、その意義を明らかにし、本学の展示内容を学内全体で検討できるよう取り組みたいと思います。
また、集合展に限らず、展示物については解説が必要ですが、これについても広く学内の教員の協力をあおぐ体制づくりが課題です。

～ 予　告 ～

平成 29 年度 山口県大学 ML 連携特別展
『やまぐちの大学　－University College Yamaguchi－』を開催します！

山口県大学 ML（ミュージアム・ライブラリー）連携事業は、平成 23 年度に活動を開始した全国でも稀少な広域大学連携展示活動です。発足当初は学内に博物館・図書館を有する県内２大学（山口大学・梅光学院大学）にて県内を巡回する展示活動として開始しましたが、平成 25 年度以降は一定期間共通テーマに即した学術資料展示を実施する形態として、県域全大学図書館に参加を呼びかけました。平成 28 年度現在、12 大学 17 館が参加しています。
平成 29 年度は、現行体制となり５周年を迎えます。全国でも稀有な当活動をさらに県民の皆様に周知いただくため、山口県立山口博物館を借用し、初の県内大学合同学術資料展示を実施いたします。
山口県内大学の博物館・図書館等に所蔵される学術資料、研究成果や大学史等は、各大学の教育・研究理念を反映したものであり、地域の文化遺産とも言えます。これらを同時に公開することによって、観覧者は当県の高等教育機関の特色をご理解いただくことになり、地域活性化につながるものと考えます。
参加機関一同、皆様のご観覧を心よりお待ちしております。

開催期間：平成 29 年 11 月 25 日（土）～ 12 月 24 日（日）

会　　場：山口県立山口博物館

Muse

&

Lin

山口県大学ML（Museum・Library）連携事業報告
平成 28 年度 展示テーマ『はぐくむ』
山口県大学 ML 連携事業 web　http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/

【編集・発行】
山口県大学 ML 連携事業事務局
〒753-8511　山口市吉田 1677-1
電話　083-933-5192
e-mail　li322@yamaguchi-u.ac.jp

2017.3.31